

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第204号

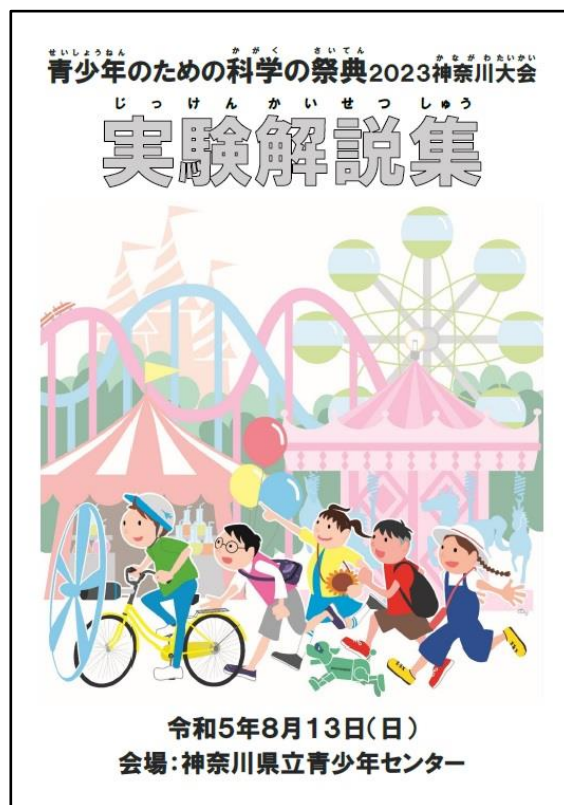
令和5年9月6日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：046-222-6370

「青少年のための科学の祭典 2023 神奈川大会」 特集号

8月13日(日曜日)に青少年センター(横浜・紅葉ヶ丘)を会場に「青少年のための科学の祭典2023神奈川大会」を開催いたしました。「青少年のための科学の祭典」は、理科、数学や科学技術といった分野の実験や工作を一同に集めて来場者に楽しんでもらう参加者体験型のイベントで、全国大会が毎年夏休みに行われており、その「神奈川大会」を平成18年度から青少年センターで開催しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度、2021年度の開催は中止、2022年は参加人数・出展団体数を制限し、事前申込制での開催となりましたが、今年は4年振りに人数制限のない中で開催することができました。当日は586名(子ども297名、大人289名)の来場者が14団体・18のブースで、実験や科学工作を楽しみました。100名の出展団体関係者に加え25名の高校生科学ボランティアが協力してイベントを盛り上げてくれました。

お盆期間中での開催となりましたが、アンケートの結果からも多くの来場者がとても楽しんで参加することができた科学の祭典となりました。ご参加いただいた皆様、そして出展団体の皆様に感謝申し上げます。





10時の開場前に200名を超す来場者が列を作っていました。久しぶりの人数制限のない中、多くの人が集まってくれました。



インターンシップの大学生・高校生が受付で実験解説集の配布やアンケート回収、案内等の受付業務を頑張ってくれました。とてもよい社会勉強となりました。



紅葉ヶ丘無線クラブ

「電気・磁石のフシギをさぐる！（電磁石を作ってみよう）」
鉄の棒に電線を巻いて電磁石を作って、電気を通すと磁石の磁力が発生する電磁石の性質を体験しました。



WDB 株式会社 エウレカ社

「しゅわしゅわバスボムをつくろう！」
重曹やクエン酸などの身近な材料を使ったバスボムを作りました。



**金旭サイエンスキャラバン 2023 in 横浜
(平塚市立金旭中学校)**

「固まる水 - 不思議な感触を体験」
中学生による、片栗粉と水を使った「ダイラタンシー現象」を体験するブースです。来場者は不思議な感触に驚いていました。



NPO 法人太陽光発電所ネットワーク・神奈川地域交流会
「ソーラーランタンを作ろう！・太陽エネルギーと勝負！」
手回し発電機を使って、太陽光パネルとの発電量を比較する体験を行いました。工作は整理券があつという間に無くなるほど人気でした。



神奈川県立平塚工科高等学校

「平工遊園地」
工業高校の生徒がこれまでに製作した電子工作の体験をするブースです。子どもたちは、電子ルーレットや太鼓を叩いて花火を表示させる電子工作を楽しんでいました。



特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会

「身近な動物で動物かざぐるまを作ろう」
動物の絵を貼り付けた風車を作りました。合わせて、身近な環境についての展示・説明もあり、来場者は興味をもって見ていました。



線香花火同好会

「- 火薬を使わない - 新・線香花火を作ろう」
 いろいろな材料を混ぜた物を和紙に載せ、和紙を巻いて線香花火を作りました。作ったものは、屋外で火をつけて、市販の線香花火のように火花が出るのを体験しました。



神奈川県立伊志田高等学校 自然科学部

「伊志田の実験ミュージアム」
 子どもたちはプラ板工作を高校生の指導のもと体験しました。また、高校生が製作した骨格標本や魚類はく製も展示していて、参加者は興味津々で見っていました。



サイエンスラボ30

「レインボウボックスで虹をみよう」
 無数の溝が刻まれている回折格子を使った簡易分光器の工作です。完成したもので光源を見ると虹のように色が分かれる様子を体験しました。



自然科学に親しむ会

「発電機をつくって、LEDを光らせよう」
 コイルと磁石を使った手回し発電機をつくり、接続したLEDが光る工作を体験しました。参加者は時間をかけて熱心に作っていました。



認定 NPO 法人 おもしろ科学たんけん工房

「おもしろ科学ひろば」
 おなじみの「くるくるリング」の工作を行いました。来場者は材料となる針金の加工を特製の道具を使って作る場所から体験していました。



おもしろ実験・科学工作指導者セミナー修了生有志

「ういてまわせる おもしろマシン（UMO マシン®）をつくろう！」
 磁石を使ったおなじみの「UMO マシン®」の工作です。整理券配布時には多くの方が並んでいました。



高橋 佳弘

「バランス人形をつくろう! -重心について考えてみよう-」
釣り用のおもりを使って、ドアノブなどに引っ掛けても落ちない重心の性質を利用した人形の工作です。高校生科学ボランティアと一緒に指導していました。



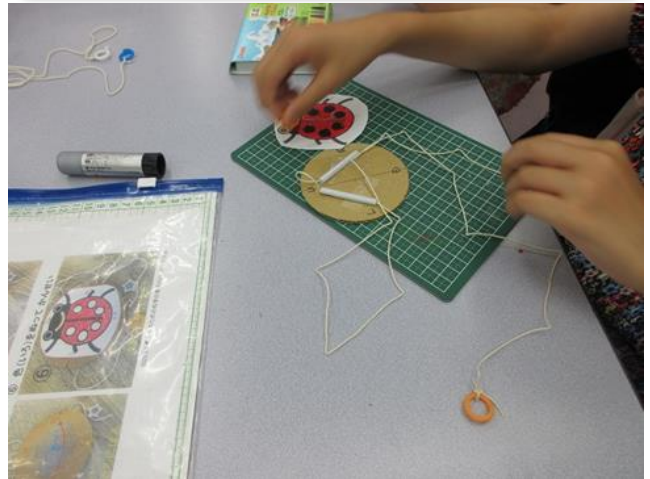
公益社団法人日本技術士会神奈川県支部

「飛行体ショー」
植物の種が遠くまで飛んでいく仕組み、空気の流れを解説しながら実験ショーを行いました。一部の実験は観覧者もその場で体験することができました。



公益社団法人日本技術士会神奈川県支部

「磁石で回る くるくるウサギ」
磁石の反発する力を利用した工作です。磁石を入れたコントローラーを近づけると、ウサギの人形を載せた磁石がクルクルと回るのを体験しました。



公益社団法人日本技術士会神奈川県支部

「引くと登る 木登り虫たち」
テントウムシなどの絵を描いた紙、裏にストローをハの字に貼った段ボールにひもを取り付ける工作です。ひもを引くと虫が上に登るのを体験しました。



公益社団法人日本技術士会神奈川県支部

「オーバルビリヤードを体験しよう」
楕円の焦点から球を転がして、もう一方の焦点に転がってくると、楕円の焦点の性質を体験しました。また、楕円の描き方についても体験しました。

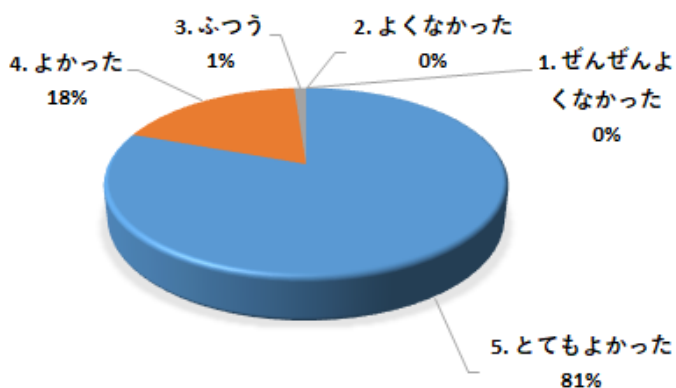


青少年センター科学部 高校生科学ボランティア

「ペットボトル空気砲/シューティングチキン」
高校生科学ボランティアによる、科学部で定番の工作のブースです。この他、「フチロボの操縦体験」や「電磁石魚釣り」もあり、多くの子どもたちが楽しんでいました。

来場者の声

来場者のアンケートによる満足度調査の結果は下のグラフの通りです。346 名の方がアンケートに回答してくださり、「とてもよかった」、「よかった」という回答を合わせると 99%でした。出展してくださった皆さまのお陰でとても満足度の高い「青少年のための科学の祭典 2023 神奈川大会」を開催することができました。



事務局から

新型コロナウイルスが5類相当になり、様々な講座やイベントが通常通り実施できるようになってきています。この夏も「子ども科学探検隊」及び「中高生サイエンスキャリアプログラム」で多くの子どもたちが協議会の会員の皆さまの施設で様々な体験をさせていただきました。

コロナ禍で思うように活動できなかった子どもたちが様々な科学体験をできる機会を今後も創出していきたくておりますので、協議会の皆さまのご協力を今後もよろしくお願いいたします。

(事務局: 奥村、山田、上田、山口)

次号予告

協議会ニュース第 205 号で「中高生サイエンスキャリアプログラム」、第 206 号で「子ども科学探検隊」の特集を予定しております。

中高生サイエンスキャリアプログラム
「サーモフィッシャーサイエンティフィックジャングループ」



子ども科学探検隊
「東海大学」

